



保育士や幼稚園、小学校の教諭らが現場で取り入れられる「運動遊び」を学んだ保幼小連続講座  
18日、福井市の県営体育館

## 保幼小「運動遊び」学ぶ

## 福井で講座

### 教諭ら230人

幼児期と児童期の教育のスムーズなつながりを目指す県幼児教育支援センターの保幼小接続講座が18日、福井市の県営体育館で開かれた。遊びから多様な動きを身に付ける「運動遊び」について、保育士や幼稚園、小学校の教諭ら約230人が実技を交えながら一緒に学んだ。

文部科学省の幼児期運動指針によると、現代の子どもたちは体を動かして遊ぶ機会が減っているために、体力・運動能力の低下だけでなく、対人関係がうまく築けないなど心身の発達に重大な影響が及ぶことが懸念されている。特に3〜8歳の間に「楽しく体

を動かす遊び」に触れる重要性が高まっており、同センターでは毎年数回開いている同講座のテーマに初めて「運動遊び」を取り上げた。

幼児体育指導者のエアアイきつすくらぶ(坂井市)の坪田誠一郎代表が講師を務め、保育や教育の現場で実践できる運動の事例を紹介。縄跳びが「手と足の違う動き」「リズム能力」「バランス能力」といった複数の運動の積み重ねと説明しながら「子どもたちがどの動作でつまづいているかしっかりと観察し、弱い部分を育てる運動遊びを考えることが大事」とアドバイスを送っていた。(高島健)